

# 「平泉の文化遺産」の寺社を知ろう！

「平泉の文化遺産」として、世界遺産に登録されようとしている構成資産には、史跡と建造物があります。その中で「中尊寺金色堂」は最も著名なものといえるでしょう。

わが国の文化財保護の歴史は明治30年（1897）に制定された「古社寺保存法」から始まります。同年12月28日、第1回目として、44件の建造物が特別保護建造物（現在の国宝建造物に相当）に指定されました。内訳は京都22件、奈良19件、大阪・滋賀・岩手各1件で、近畿地方以外では金色堂ただ一つだけが選ばれたのです。昭和26年、文化財保護法による初めての国宝指定においては「国宝建造物第1号」として登録指定されました。金色堂は、まさに「国宝中の国宝」ということができるでしょう。

金色堂は、奥州藤原氏初代清衡公による中尊寺造営当初の姿を伝える唯一の建造物で、天治元年（1124）に上棟されました。堂の内外に金箔を押ししている「皆金色」の阿彌陀堂です。ご本尊は阿彌陀如来。その前に観音菩薩と勢至菩薩、左右に3体ずつ地藏菩薩が一列に並び、最前列には持国天と増長天。この仏像構成は金色堂独特のものです。仏壇（須弥壇）、4本の巻柱、長押には、螺鈿（夜光貝の細工）、漆の蒔絵、透

かし彫りの金具と、当時の美術工芸の粋が施されています。

藤原清衡公は、東北地方に「仏の教えによる平和な理想社会」を築くべく、極楽浄土を具体的に、現世に表そうと金色堂を建立されたのです。

孔雀がデザインされた中央の須弥壇内には、初代清衡公の御遺体が納められ、向かって左の壇に二代基衡公、右に三代秀衡公と四代泰衡公が納められています。

中尊寺 北嶺 澄照



中尊寺金色堂

世界遺産登録に向けた調査や審査が、いよいよ間近に迫ってきました。それに伴い、さまざまなことを尋ねられる機会も多くなってきています。このコーナーでは、「平泉の文化遺産」を構成する寺社について、それぞれの立場から分かりやすく解説していただきます。

## 第1回 中尊寺金色堂

### お知らせします

## 埋蔵文化財発掘調査の実施期間

町教育委員会では、19年度の発掘調査を4月から開始しました。本年度は無量光院跡をはじめ、12件の発掘調査を予定しています。

事業を円滑に進めるため、町民の皆さまのご理解とご協力を頂き、例年通り実施してまいります。

#### 1 発掘調査（野外調査）実施期間と経費

4月上旬から10月末までが発掘調査（野外調査）期間です。なお発掘に係る経費については、文化財保護法に基づく原因者負担の原則により、開発事業者負担していただきます。個人の住宅等建設の場合は国庫補助制度により個人負担はありません。

#### 2 室内整理期間（発掘調査報告書作成等）

11月から3月末までが室内整理期間です。この期間は原則として発掘調査は実施しません。

#### 3 受付期間（開発事業の協議）

4月1日から12月20日までが受付期間です。この期間内に協議があれば、調整した上で20年度以後のスケジュールに入れていきます。住宅建設等の計画がある場合は、できるだけ早い時期に協議をお願いします。

#### 受付場所（協議先）・問い合わせ先

町教育委員会 ☎46-5576  
町文化財センター ☎46-2118



春の藤原まつりのメイン行事、5月3日の「源義経公東下り行列」。源義経公役は俳優の中尾明慶さん、藤原秀衡公役は岩手県観光協会理事長の佐藤義正さん、北の方役は会社員の南洞星子さんが務めます。

旧観自在王院庭園では、劇団わらび座が10時10分から、ミュージカル「義経—平泉の夢」の特別公演を行います。「平泉の文化遺産」の世界遺産登録推進の機運に乗って、県内外からたくさんの人出が期待されています。

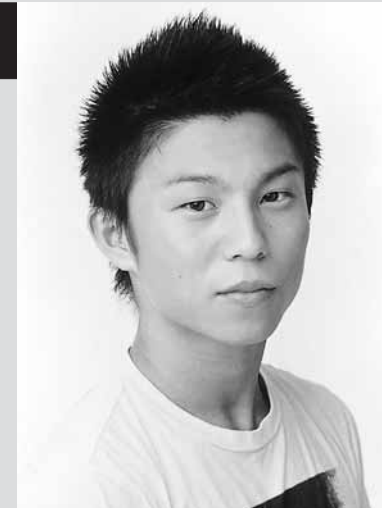
## 東下り行列主要役者



北の方にふんする  
会社員  
なんとう せいこ  
南洞星子さん



藤原秀衡公にふんする  
岩手県観光協会理事長  
国際観光旅館連盟会長  
さとう よしまさ  
佐藤義正さん



源義経公にふんする  
俳優  
なかお あきよし  
中尾明慶さん

# 春の藤原まつり

## 春の藤原まつり 行事日程

5月1日から5日まで、町内各地で多彩な行事が繰り広げられます。3日の源義経公東下り行列では、今年はいよいよ長島小学校合奏団、本行列は平泉小学校金管バンドが先陣を務めます。

日	時間	会場
◆五月一日（火曜日）	10時	中尊寺本堂
◆五月二日（水曜日）	10時	中尊寺本堂
◆五月三日（木曜日）	10時	中尊寺坂下出発
◆五月四日（金曜日）	10時	旧観自在王院庭園
◆五月五日（土曜日）	10時	旧観自在王院庭園